

証券コード 6315

平成25年6月5日

株 主 各 位

京都市南区上鳥羽上調子町5番地

TOWA株式会社

代表取締役社長 岡 田 博 和

第35回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、当社第35回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申しあげます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面により議決権を行使することができませんので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成25年6月26日（水曜日）午後5時30分（営業時間内）までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。

敬 具

記

1. 日 時 平成25年6月27日（木曜日）午前10時
2. 場 所 京都市南区上鳥羽上調子町5番地
当社本社7階会議室
(末尾に添付の株主総会会場ご案内図をご参照ください。)
3. 目的事項
報告事項
 1. 第35期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第35期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）計算書類報告の件

決 議 事 項

議 案 取締役8名選任の件

以 上

~~~~~  
◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

◎なお、株主総会参考書類ならびに事業報告、連結計算書類および計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <http://www.towajapan.co.jp>）に掲載させていただきます。

## (提供書面)

# 事業報告

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過および成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、復興需要による景気回復が期待される中で始まりました。しかしながら、長引く欧州の債務問題や国内の電力需給問題、円高や政治イベントによる心理的な影響等により、前半の景況感は停滞、あるいはやや減速と言える水準となりました。後半に入りますと、金融緩和観測の広がりから為替相場が急激に円安方向へと動き、1ドル90円を超える水準となりました。これにより輸出企業各社の業績回復が顕著となり、株式市場も上昇基調へと転じるなど様々な好影響があらわれました。また、日本経済の構造改革に対しても国内外から大きな期待が寄せられるようになり、市場開放や高齢化、膨らむ医療費の問題等を抱えながらも、日本経済はようやく本格的な回復段階にあると言える状況となりました。

一方、世界情勢を振り返りますと、依然として欧州の金融システム混乱に対する懸念は強く、高成長を続けてきた中国やインド等の新興国においても欧州向けの輸出減少により成長の鈍化が顕著となりました。アジアやアフリカ地域においては、ナショナリズムの高まりや治安維持の問題が頻繁に報道され、企業の経済活動に対しても実際に被害が及んだり機会損失が発生する等の残念な結果となる事象も見られました。米国での個人消費や住宅市場が比較的堅調に推移したことから、世界的な景気腰折れまでには至りませんでした。先行きへの不透明感はやや強い状況にありました。

半導体業界におきましては、日本の半導体メーカーが外資の出資受け入れや、公的機関の支援を受けるなどの苦境にある中、生産設備を持たない半導体メーカー、いわゆるファブレス企業が半導体売上高で上位に入り、ますますその存在感を高めました。一方、依然として絶大な影響力を持つ世界トップのIDMやファウンドリーは、露光装置を牽引する大手製造装置メーカーに資本参加し、次世代の技術開発に向けた取り組みを始めるなど、技術力・資金力による優勝劣敗の構図が鮮明となりました。半導体の需要そのものは、パソコンやテレビの需要減退に加え、牽引役であったスマートフォン等でも年度後半には生産調整が行われたこと等から、やや盛り上がり欠ける市況が続きました。しかしながら各半導体メーカーは、Waferのインチャップや基板の大型化による半導体のコストダウンに対する投資、あるいは3Dパッケージなどの最先端技術に対する投資には非常に積極的で

ありました。LED市場においては、演色性の課題が徐々にクリアーにされ、照明用途の市場規模がバックライト向けを上回るなど、引き続き順調に市場規模を拡大しました。しかしながらLED製造装置市場では、引き続き供給過剰の状態にあることや、LEDの規格化を睨んで、各社が積極的な投資に踏み切らない状況が続きました。

この様な状況のもと当社グループは、前連結会計年度に開催しましたプライベートショー（2011年12月）にご来場いただいたお客様を徹底的にフォローし、受注高に結び付けてまいりました。とりわけ、従来はトランスファモールド装置を採用していた大手IDMの生産ラインにおいて、プライベートショーで披露した当社独自技術であるコンプレッションモールド装置への置き換えを実現させたことは、今後、市場における当社の製品戦略を格段に優位にし、収益性を伴った市場シェアの拡大という当社の中期ビジョンを達成するための大きな成果となりました。半導体を個片化する装置であるシンギュレーション装置においては、お客様の工場内に設置し、実際の生産ラインで稼働させていただくことにより様々なデータ収集を行い、他社製品を凌駕する競争力を備えてまいりました。そして、このシンギュレーション装置の完成形である「FMS3040」の量産体制ならびに海外現地出荷のデリバリー体制を構築し、モルディング装置と並ぶ主力製品としての受注を開始いたしました。

この様な製品戦略に加え、北米を中心とするファブレス企業、IDM、デザインハウス等へのアプローチという新しいマーケット戦略の取り組みを開始いたしました。これらの企業は当社の主要なお客様である台湾・中国等のOSAT各社の“お客様”であり、当社はお客様の“お客様”を良く知り、半導体の開発段階から半導体メーカーと情報交換や技術交流を行うことで、OSAT各社に対する当社の信頼度や存在感を高める狙いがあります。具体的には当社グループの北米拠点にモルディング装置のプレスおよび金型を設置し、ファブレス企業やIDM等が半導体チップの開発段階でモルディングの評価・実験を行えるインフラを整備いたしました。また、韓国地域においては、持分法適用関連会社であった株式会社東進への出資比率を高め、連結子会社とした上で、リピータ金型の専用工場といたしました。リピータ金型の市場規模は大きく、当社は海外のローカル企業に流れているリピータ金型の捕捉に注力しており、納期・価格において競争力のある専用生産ラインを立ち上げたものであります。

これらの取り組みに加え、次世代の半導体パッケージに対応できる製造装置の開発にも注力してまいりました。ますます大型化が進む基板やWaferのモルディングに対応する要素技術の開発として、顆粒樹脂を用いた樹脂流動の無いコンプレッション方式の成形プロセスをベースにし、大面積ワークや高密度パッケージングに対しても信頼性の高いモルディングプロセスを提供できるよう取り組んでまいりました。また、技術開発型企業の競争力を高める知的財産戦略にも計画的に方策を実施しており、対象となる企業とはライセンス契約を締結する等の成果を残しております。

以上の様な取り組みを行ってきたことから、下半期の半導体市況停滞の影響は大きかったものの、当連結会計年度の売上高は164億54百万円（前連結会計年度比6億86百万円、4.0%減）と前期比微減に留まりました。また、第4四半期連結会計期間に大きく為替相場が変動（円安）したことから、連結決算処理における当社と子会社間の売上・仕入に係る未実現取引が増加し、売上総利益が引き下げられる一方、当該未実現取引は営業外収益（為替差益）として戻し入れし、経常利益では影響を受けないことから、営業利益は4億39百万円の損失（前連結会計年度は14億76百万円の利益）となりますが、経常利益は6億63百万円（前連結会計年度比10億9百万円、60.3%減）、当期純利益は6億91百万円（前連結会計年度比2億76百万円、28.6%減）となりました。なお、事業セグメント別の売上高は以下のとおりです。

企業集団の事業セグメント別の売上高

（単位：百万円）

| 事業区分            | 第34期<br>平成23年4月1日から<br>平成24年3月31日まで |        | 第35期<br>平成24年4月1日から<br>平成25年3月31日まで |        | 前<br>年<br>連<br>結<br>会<br>計<br>増<br>減<br>額 | 計<br>減<br>率 |
|-----------------|-------------------------------------|--------|-------------------------------------|--------|-------------------------------------------|-------------|
|                 | 売上高                                 | 構成比    | 売上高                                 | 構成比    |                                           |             |
|                 | 半導体製造装置事業                           | 15,852 | 92.5%                               | 15,176 | 92.2%                                     | △676        |
| ファインプラスチック成形品事業 | 1,287                               | 7.5%   | 1,277                               | 7.8%   | △9                                        | △0.8%       |
| 合計              | 17,140                              | 100.0% | 16,454                              | 100.0% | △686                                      | △4.0%       |

② 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資額は12億62百万円であり、半導体製造装置事業において12億32百万円、ファインプラスチック成形品事業において30百万円を実施いたしました。

③ 資金調達の状況

当社は、資金調達の効率化および安定化を図るため取引銀行6行と総額68億50百万円の当座貸越契約およびコミットメントライン契約を締結しております。なお、当該契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高は9億50百万円であります。

④ 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況

当社は、平成24年4月5日付で、当社持分法適用関連会社であった株式会社東進の発行済株式12,000株を追加取得（取得価格：1,127,808千ウォン）し、連結対象の子会社といたしました。

## (2) 直前3事業年度の財産および損益の状況

| 区 分                  | 第 32 期<br>(平成22年3月期) | 第 33 期<br>(平成23年3月期) | 第 34 期<br>(平成24年3月期) | 第 35 期<br>(平成25年3月期) |        |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------|
| 売 上 高                | 百万円                  | 14,274               | 22,592               | 17,140               | 16,454 |
| 経 常 利 益<br>(△損失)     | 百万円                  | △345                 | 4,064                | 1,672                | 663    |
| 当 期 純 利 益<br>(△純損失)  | 百万円                  | △330                 | 3,751                | 968                  | 691    |
| 1株当たり当期純利益<br>(△純損失) | 円                    | △13.19               | 150.00               | 38.71                | 27.64  |
| 総 資 産                | 百万円                  | 26,738               | 27,288               | 26,817               | 25,896 |
| 純 資 産                | 百万円                  | 11,091               | 14,771               | 15,926               | 17,072 |
| 1株当たり純資産額            | 円                    | 443.43               | 590.54               | 636.74               | 674.56 |

(注) 1. 1株当たり当期純利益(△純損失)は、期中平均発行済株式総数(自己株式控除後)により算出しております。

2. 1株当たり純資産額は、期末発行済株式総数(自己株式控除後)により算出しております。

### (3) 重要な親会社および子会社の状況

#### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

#### ② 重要な子会社の状況

| 会社名                                                  | 資本金              | 当社の議決権比率 | 主要な事業内容                |
|------------------------------------------------------|------------------|----------|------------------------|
| 株式会社バンディック                                           | 96百万円            | 100.0%   | ファインプラスチック成形品の製造       |
| TOWATEC株式会社                                          | 30百万円            | 100.0%   | 半導体製造装置・金型のアフターサービス    |
| TOWA Asia-Pacific Pte.Ltd.                           | 500千シンガポールドル     | 100.0%   | 半導体製造装置・金型の販売・アフターサービス |
| TOWAM Sdn.Bhd.                                       | 8,000千マレーシアリンギット | 100.0%   | 半導体製造装置の製造             |
| TOWA Semiconductor Equipment Philippines Corporation | 11,000千フィリピンペソ   | 100.0%   | 半導体製造装置・金型の販売・アフターサービス |
| TOWA USA Corporation                                 | 1,000千米ドル        | 100.0%   | 半導体製造装置・金型の販売・アフターサービス |
| TOWA Europe GmbH                                     | 300千ユーロ          | 100.0%   | 半導体製造装置・金型の販売・アフターサービス |
| 東和半導体設備(上海)有限公司                                      | 1,000千米ドル        | 100.0%   | 半導体製造装置・金型の販売・アフターサービス |
| TOWA半導体設備(蘇州)有限公司                                    | 12,000千米ドル       | 100.0%   | 半導体製造装置・金型の製造          |
| 台湾東和半導体設備股份有限公司                                      | 10,000千ニュー台湾ドル   | 100.0%   | 半導体製造装置・金型の販売          |
| 株式会社東進                                               | 800百万ウォン         | 50.0%    | 半導体製造装置・金型の製造          |

(注) 1. 平成24年4月5日付で株式会社東進の発行済株式を追加取得し、同社を連結対象の子会社といたしました。

2. 平成25年1月17日付でTOWA USA Corporationを設立いたしました。

3. TOWA America Corporationは、平成25年3月31日をもって事業活動を休止したため、重要な子会社から除外いたしました。

#### (4) 対処すべき課題

当社グループは、財務・収益構造の改革を遂行し、損益分岐点売上高の引き下げを実現したことから、中期経営計画の2年目となる当事業年度に新体制を発足させ、攻めの経営へと大きく舵を切りました。一方、今後も世界経済や半導体市況の変動、当社グループの事業領域における新たな競合の発生など、様々な変化が起こることを前提とした上で、成長を続ける企業となるために必要な仕組みを構築するべく諸施策に取り組んでおります。当社グループにおける当面の主要な課題は次のとおりであります。

##### <半導体製造装置事業>

###### ①コンプレッション方式の市場浸透による差別化

半導体のモールディングにおいては、まだトランスファ方式が主流であります。基板の大型化や半導体パッケージの高密度化等が進み、トランスファ方式では対応できないものが増えております。今後は主流となるこれらの半導体パッケージには、当社の独自技術であるコンプレッション方式によるモールディング装置が必要となります。当社は、従来のトランスファ方式のモールディング装置をこのコンプレッション方式のモールディング装置へ置き換える“流れ”を業界内に起こそうとしており、コンプレッション技術を横展開したLED樹脂封止装置の開発・改良とあわせて、当社独自技術の市場浸透による差別化を進めてまいります。

###### ②シンギュレーション装置の拡販による事業規模・収益の拡大

シンギュレーション装置は、モールディングの次工程となる個片化工程の半導体製造装置であります。つまり、シンギュレーション装置のお客様は、当社が高い市場シェアをもっているモールディング装置のお客様と同じであります。当社は、モールディング装置での高い信頼と市場シェアを活かし、再びシンギュレーション装置においても世界トップシェアを目指してまいります。

### ③「マーケットイン」型の営業・生産・サービス網の構築

大手IDMや北米のファブレス企業、台湾・中国地域のOSAT各社など、半導体業界において大きな影響力を持つ各社からの情報やそのニーズへの対応は、当社グループが5年先、10年先にも成長を続けるためには必要不可欠であります。当社は、最大の市場である台湾や韓国において、合弁会社の子会社化や新販売事業会社の設立等を実行し、営業・サービス網の強化やリピート金型専用ラインの設置等を行ってまいりました。これからもグローバルな人材育成やさらなる生産・設計の海外移管などに取り組むと同時に、国内外のお客様との関係を強化してまいります。

### ④コア技術によるイノベーション

当社のコア技術は「金型」であり、最も競争力のある製品セグメントであります。半導体パッケージが複雑化、高密度化する中、封止（モールドイング）に用いられる樹脂には強い粘性が求められるようになりました。しかしこれは、モールドイング工程において重要な要素となる金型の離型性とは相反関係にあります。当社は、高離型を実現する「夢の金型」の開発に取り組んでおり、半導体製造用等超精密金型の世界にイノベーションを起こす「夢」の実現に“挑戦”し続けてまいります。

### <ファインプラスチック成形品事業>

ファインプラスチック成形品事業は、主に医療用途に用いられる化成品を生産、販売しております。納品する医療器メーカーは限定している一方、当該医療器メーカーからは指定工場の認可を取得しており、安定した事業となっております。今後も、クリーンルームの整備や製品品質の管理等、納品先からの信頼を維持できるよう取り組んでまいります。

(5) 主要な事業内容（平成25年3月31日現在）

| 事業区分            | 事業内容              |
|-----------------|-------------------|
| 半導体製造装置事業       | 半導体製造装置の製造および販売   |
| ファインプラスチック成形品事業 | 医療器具用パーツ等の製造および販売 |

(6) 主要な営業所および工場（平成25年3月31日現在）

| 名称                    | 所在地          | 主な事業区分          |
|-----------------------|--------------|-----------------|
| TOWA株式会社              | 本社工場         | 京都市南区           |
|                       | 京都東事業所       | 京都府綴喜郡宇治田原町     |
|                       | 九州事業所        | 佐賀県鳥栖市          |
| 株式会社バンディック            | 山梨県韮崎市       | ファインプラスチック成形品事業 |
| TOWAM S d n . B h d . | マレーシア [ペナン州] | 半導体製造装置事業       |
| TOWA半導体設備(蘇州)有限公司     | 中国 [江蘇省]     | 半導体製造装置事業       |
| 株式会社東進                | 韓国 [忠北]      | 半導体製造装置事業       |

(7) 従業員の状況（平成25年3月31日現在）

① 企業集団の従業員の状況

| 事業区分            | 従業員数          | 前連結会計年度末比増減 |
|-----------------|---------------|-------------|
| 半導体製造装置事業       | 998 (44) 名    | 90名増 (6名増)  |
| ファインプラスチック成形品事業 | 37 (135) 名    | 3名減 (13名減)  |
| 合計              | 1,035 (179) 名 | 87名増 (7名減)  |

(注) 1. 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時雇用者数（パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。）は、（ ）内に年間の平均人数を外数で記載しております。

2. 半導体製造装置事業における従業員数が前連結会計年度末比90名増加しております。主な要因は、平成24年4月5日付で株式会社東進を連結子会社化したことによる増加（82名）であります。

② 当社の従業員の状況

| 従業員数       | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------------|-----------|-------|--------|
| 425 (30) 名 | 4名減 (6名増) | 39.4歳 | 14.0年  |

(注) 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、( )内に年間の平均人員数を外数で記載しております。

(8) 主要な借入先の状況 (平成25年3月31日現在)

(単位: 百万円)

| 借入先             | 借入額   |
|-----------------|-------|
| 株式会社京都銀行        | 2,015 |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 1,042 |
| 株式会社三井住友銀行      | 685   |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行   | 670   |
| 三井住友信託銀行株式会社    | 265   |
| 農林中央金庫          | 110   |

(注) 当社は、資金調達の効率化および安定化を図るため、取引銀行6行と総額68億500万円の当座貸越契約およびコミットメントライン契約を締結しております。なお、当該契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高は9億500万円であります。

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況（平成25年3月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 80,000,000株
- ② 発行済株式の総数 25,021,832株
- ③ 株主数 8,778名
- ④ 大株主（上位10名）

| 株 主 名                | 持 株 数      | 持 株 比 率 |
|----------------------|------------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 3,728,400株 | 14.91%  |
| 有限会社 ケイビー恒産          | 2,000,000株 | 8.00%   |
| 坂 東 和 彦              | 1,555,560株 | 6.22%   |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社   | 1,409,800株 | 5.64%   |
| 野村信託銀行株式会社           | 733,200株   | 2.93%   |
| 株式会社 京都銀行            | 699,840株   | 2.80%   |
| 有限会社 ケイビーテクノ         | 500,000株   | 2.00%   |
| 山 田 矩 規 子            | 490,180株   | 1.96%   |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社     | 338,300株   | 1.35%   |
| 坂 東 敬 子              | 320,104株   | 1.28%   |

(注) 持株比率は自己株式（9,923株）を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員の状況

#### ① 取締役および監査役の状況（平成25年3月31日現在）

| 氏名   | 地位および担当                         | 重要な兼職の状況                                           |
|------|---------------------------------|----------------------------------------------------|
| 坂東和彦 | 代表取締役会長                         |                                                    |
| 岡田博和 | 代表取締役社長                         |                                                    |
| 天川剛  | 専務取締役<br>開発本部担当                 |                                                    |
| 小西久二 | 常務取締役・<br>モールド事業部・<br>システム事業部担当 |                                                    |
| 福富誠  | 常務取締役                           | TOWAM Sdn. Bhd.<br>Chairman<br>兼 Managing Director |
| 西村永和 | 取締役相談役                          | 株式会社バンディック<br>代表取締役会長                              |
| 桑木肇  | 取締役                             | 桑木公認会計士事務所 所長<br>ダイベア株式会社 社外監査役<br>富士機工株式会社 社外監査役  |
| 小林久芳 | 常勤監査役                           |                                                    |
| 杉山公律 | 監査役                             |                                                    |
| 和氣大輔 | 監査役                             | 和氣公認会計士事務所 所長                                      |

(注) 1. 取締役桑木 肇氏は、社外取締役であります。

2. 監査役杉山公律氏および監査役和氣大輔氏は、社外監査役であります。

3. 常勤監査役小林久芳氏および監査役和氣大輔氏は、以下のとおり、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

- ・常勤監査役小林久芳氏は、長年にわたり当社の経理部に在籍し、経理・財務業務に携わってきた経験があります。
- ・監査役和氣大輔氏は、公認会計士および税理士の資格を有しております。

4. 取締役桑木 肇氏、監査役杉山公律氏および監査役和氣大輔氏につきましては、東京証券取引所および大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

## ② 取締役および監査役に支払った報酬等の総額

(単位：千円)

| 区 分                     | 支給人員       | 支給額                |
|-------------------------|------------|--------------------|
| 取<br>（うち社<br>締外取<br>締役） | 7名<br>(1名) | 216,056<br>(4,790) |
| 監<br>（うち社<br>査外監<br>査役） | 5名<br>(3名) | 20,580<br>(7,320)  |
| 合 計                     | 12名        | 236,636            |

- (注) 1. 上記には、平成24年6月28日開催の第34回定時株主総会終結の時をもって退任した監査役2名（うち社外監査役1名）を含んでおります。
2. 取締役の報酬限度額は、平成19年6月28日開催の第29回定時株主総会において年額3億円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。
3. 監査役の報酬限度額は、平成19年6月28日開催の第29回定時株主総会において年額24百万円以内と決議いただいております。
4. 上記の報酬等の額には、取締役7名に対する当事業年度における役員賞与引当金の繰入額29,563千円が含まれております。

## ③ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等との重要な兼職状況（他の法人等の業務執行者である場合）および当社と当該他の法人等との関係

- ・取締役桑木 肇氏は、桑木公認会計士事務所の所長であります。当社と桑木公認会計士事務所との間には特別な関係はありません。
- ・監査役和氣大輔氏は、和氣公認会計士事務所の所長であります。当社と和氣公認会計士事務所との間には特別な関係はありません。

ロ. 他の法人等の社外役員の兼任状況および当社と当該他の法人等との関係

- ・取締役桑木 肇氏は、ダイバア株式会社の社外監査役および富士機工株式会社の社外監査役であります。当社とダイバア株式会社および富士機工株式会社との間には特別な関係はありません。

## ハ. 当事業年度における主な活動状況

### ・取締役会および監査役会への出席状況

|          | 取締役会（18回開催） |        | 監査役会（18回開催） |        |
|----------|-------------|--------|-------------|--------|
|          | 出席回数        | 出席率    | 出席回数        | 出席率    |
| 取締役桑木 肇  | 17回         | 94.4%  | -           | -      |
| 監査役杉山 公律 | 18回         | 100.0% | 18回         | 100.0% |
| 監査役和氣大輔  | 13回         | 100.0% | 13回         | 100.0% |

（注）監査役和氣大輔氏の取締役会および監査役会への出席状況は、平成24年6月28日就任以降に開催された取締役会13回および監査役会13回に対するものです。

### ・取締役会および監査役会における発言状況

取締役桑木 肇氏は、主に会計もしくは税務的な見地から意見を述べると、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言をいただいております。

監査役杉山公律氏は、地元企業と関係の深い発明協会での豊富な経験から当社の経営上有用な指摘、意見をいただいております。

監査役和氣大輔氏は、公認会計士および税理士としての専門的見地から当社の経営上有用な指摘、意見をいただいております。

## ニ. 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役および社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。

#### (4) 会計監査人の状況

① 名称 京都監査法人

② 報酬等の額

(単位：千円)

|                                      | 支 払 額  |
|--------------------------------------|--------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                  | 31,500 |
| 当社および子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 31,500 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区別しておらず、実質的にも区別できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

③ 非監査業務の内容

該当する事項はありません。

④ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

取締役会は、当社都合の場合の他、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査役会の同意を得たうえで、または、監査役会の請求に基づいて、会計監査人の解任または不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。

## (5) 業務の適正を確保するための体制

当社は、取締役会において、内部統制システム構築の基本方針を決議しております。決議内容の概要は次のとおりです。

### [決議内容の概要]

- ① 取締役および従業員の職務執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
  - イ. 法令遵守を重要課題と位置付け、取締役および従業員が、法令・定款および社会規範を遵守した行動をとるための規範となるコンプライアンス規程をはじめ、法令遵守に係る規程を整備・制定する。
  - ロ. 法令遵守体制を構築してゆくため、取締役、管理職および従業員に対して階層別に必要な研修を定期的実施する。
  - ハ. 内部監査室は、その監査の一環として法令遵守体制の有効性について監査する。
  - ニ. 前二項の結果は、定期的に取り締役会および監査役会に報告されるものとする。
  - ホ. 法令上疑義のある行為等について、直接情報提供を受ける手段として通報者の保護を徹底した公益通報・相談システムを充実する。
  
- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する事項

取締役会議事録、稟議書、帳票類、各種契約書、その他取締役の職務執行状況を示す主要な保存文書・情報類（電磁的媒体を含む。）の明確化を行い、適切な保存期間の設定および管理方法を明確にするために、文書管理規程・情報システム管理規程の見直し・整備を推進する。
  
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - イ. リスク管理を経営の重要課題と位置付け、当社の経営環境、事業活動、会社財産の状況を踏まえたリスクの識別、分析および評価を実施する。
  - ロ. 識別および分析されたリスクに応じて、リスク管理に係る規程を制定してゆく。
  - ハ. 各種リスクに応じたリスク管理組織の設置と職務分掌を制定し、リスク管理を有効にするための具体的管理計画の策定に基づいた管理の実行と定期的な評価を行う体制の構築に取り組む。
  - ニ. 前項のリスク管理に関する実行と評価は、定期的に取り締役会に報告する。
  - ホ. 内部監査室は、その監査の一環としてリスク管理の有効性について監査する。

- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- イ. 当社の経営方針および経営戦略に関わる重要事項については、あらかじめ経営会議において協議を行い、取締役会が決定する。
  - ロ. 取締役会が執行を決定した当社の経営方針および経営戦略に関わる重要事項については、経営会議において定期的にレビューを行い、取締役会に報告する。
  - ハ. 取締役の職務の執行の効率性を確保するために、執行役員制度の導入によって職務分担と権限を明確にし、社内組織における適切な役割分担と連携を行う体制を構築する。
  - ニ. 業務の簡素化、組織のスリム化およびITの適切な活用を通じて業務の効率化推進体制を構築する。
- ⑤ 親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ. 組織・職務分掌規程および関係会社管理規程に基づき、グループ会社統括担当部門および各本部は、それぞれの所管業務を通じて、子会社の事業における内部統制システムの構築・整備・運用について指導・管理する。
  - ロ. 内部監査室は、国内外事業会社内部監査規程の定めるところに従って、子会社における法令遵守およびリスク管理体制等内部統制システムの構築と運用について監査する。
- ⑥ 監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合における当該従業員に関する事項
- 監査役が求めたときは、取締役会は監査役と協議のうえ、監査役の職務を補助すべき従業員（以下、監査役スタッフという。）を必要に応じて配置するように努める。
- ⑦ 監査役スタッフの取締役からの独立性に関する事項
- イ. 監査役スタッフが監査役補助職務を担うときは、独立した組織で監査役直属となるよう配慮する。
  - ロ. 監査役スタッフが兼任、または他部門に所属しながら監査役補助職務を担うときは、監査役以外の指示命令には属さないものとする。
  - ハ. 監査役スタッフの人事異動については、あらかじめ監査役に協議し、その同意を得る。

ニ. 監査役スタッフの人事評価については、あらかじめ監査役に協議し、その意見を求める。

⑧ 取締役および従業員が監査役会または監査役に報告するための体制その他の監査役会への報告に関する体制

会社経営および事業運営上の重要事項ならびに業務執行の状況および結果等、あらかじめ協議して定める監査役（会）に対する報告事項について実効的かつ機動的な報告がなされるよう社内体制の整備を行う。

⑨ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

イ. 会社の重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握するために、監査役が社内の重要な会議等に出席できる体制を確保する。

ロ. 代表取締役社長と監査役（会）は定期的に会合をもち、監査上の重要課題等について意見を交換し、相互認識と信頼関係を深めるように努める。

**(6) 剰余金の配当等の決定に関する方針**

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営施策の一つであると考えており、競争力のある製品開発を目指す研究開発投資や、生産性向上を目的とする設備投資、さらなる財務体質の改善等に必要な内部留保を確保した上で、各事業年度の業績に応じた利益配分を実施することを基本方針としております。

なお、当事業年度につきましては、従前の発表のとおり1株当たり10円の配当を行うことを決定しております。

# 連結貸借対照表

(平成25年 3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部            |                   | 負 債 の 部                |                   |
|--------------------|-------------------|------------------------|-------------------|
| <b>流 動 資 産</b>     | <b>13,012,336</b> | <b>流 動 負 債</b>         | <b>4,982,777</b>  |
| 現金および預金            | 5,608,110         | 支払手形および買掛金             | 984,805           |
| 受取手形および売掛金         | 3,811,635         | 設備関係支払手形               | 352,207           |
| た な 卸 資 産          | 3,293,907         | 短 期 借 入 金              | 1,068,720         |
| 繰 延 税 金 資 産        | 43,517            | 一年以内返済予定長期借入金          | 1,016,037         |
| そ の 他              | 257,357           | 一年以内償還予定社債             | 100,000           |
| 貸 倒 引 当 金          | △2,192            | リ ー ス 債 務              | 823               |
| <b>固 定 資 産</b>     | <b>12,884,554</b> | 未 払 法 人 税 等            | 100,362           |
| <b>有 形 固 定 資 産</b> | <b>10,216,661</b> | 製 品 保 証 引 当 金          | 66,165            |
| 建物および構築物           | 3,684,346         | 賞 与 引 当 金              | 304,367           |
| 機械装置および運搬具         | 2,004,468         | 役 員 賞 与 引 当 金          | 29,563            |
| 土 地                | 4,214,077         | 繰 延 税 金 負 債            | 48,612            |
| リ ー ス 資 産          | 3,269             | そ の 他                  | 911,111           |
| そ の 他              | 285,221           | <b>固 定 負 債</b>         | <b>3,841,869</b>  |
| 建 設 仮 勘 定          | 25,278            | 社 債                    | 340,000           |
| <b>無 形 固 定 資 産</b> | <b>632,034</b>    | 長 期 借 入 金              | 2,539,584         |
| 投資その他の資産           | 2,035,857         | リ ー ス 債 務              | 2,608             |
| 投資有価証券             | 1,645,766         | 繰 延 税 金 負 債            | 144,359           |
| 繰 延 税 金 資 産        | 74,749            | 退 職 給 付 引 当 金          | 815,316           |
| そ の 他              | 315,341           | <b>負 債 合 計</b>         | <b>8,824,647</b>  |
| <b>資 産 合 計</b>     | <b>25,896,890</b> | <b>純 資 産 の 部</b>       |                   |
|                    |                   | <b>株 主 資 本</b>         | <b>16,276,833</b> |
|                    |                   | 資 本 金                  | 8,932,627         |
|                    |                   | 資 本 剰 余 金              | 462,236           |
|                    |                   | 利 益 剰 余 金              | 6,890,472         |
|                    |                   | 自 己 株 式                | △8,503            |
|                    |                   | その他の包括利益累計額            | 595,114           |
|                    |                   | その他有価証券評価差額金           | 392,535           |
|                    |                   | 為替換算調整勘定               | 202,579           |
|                    |                   | 少 数 株 主 持 分            | 200,295           |
|                    |                   | <b>純 資 産 合 計</b>       | <b>17,072,243</b> |
|                    |                   | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b> | <b>25,896,890</b> |

# 連 結 損 益 計 算 書

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                         | 金 額        |
|-----------------------------|------------|
| 売 上 高                       | 16,454,103 |
| 売 上 原 価                     | 12,696,511 |
| 売 上 総 利 益                   | 3,757,592  |
| 販 売 費 お よ び 一 般 管 理 費       | 4,197,269  |
| 営 業 損 失                     | 439,677    |
| 営 業 外 収 益                   | 1,248,960  |
| 受 取 利 息 お よ び 配 当 金         | 65,423     |
| 為 替 差 益                     | 1,031,774  |
| 持 分 法 に よ る 投 資 利 益         | 22,221     |
| 雑 収 入                       | 129,541    |
| 営 業 外 費 用                   | 146,101    |
| 支 払 利 息 お よ び 社 債 利 息       | 78,686     |
| 支 払 手 数 料                   | 62,548     |
| 雑 損 失                       | 4,867      |
| 経 常 利 益                     | 663,181    |
| 特 別 利 益                     | 112,055    |
| 固 定 資 産 売 却 益               | 23,458     |
| 段 階 取 得 に 係 る 差 益           | 88,597     |
| 特 別 損 失                     | 15,420     |
| 固 定 資 産 除 却 損               | 13,030     |
| ゴ ル フ 会 員 権 評 価 損           | 2,150      |
| そ の 他                       | 239        |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益       | 759,816    |
| 法 人 税 ・ 住 民 税 お よ び 事 業 税   | 90,524     |
| 法 人 税 等 調 整 額               | △14,195    |
| 少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益 | 683,487    |
| 少 数 株 主 損 失                 | 7,954      |
| 当 期 純 利 益                   | 691,441    |

## 連結株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から)  
(平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

|                               | 株 主 資 本   |           |           |         |             |
|-------------------------------|-----------|-----------|-----------|---------|-------------|
|                               | 資 本 金     | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
| 平成24年4月1日期首残高                 | 8,932,627 | 462,236   | 6,324,093 | △8,241  | 15,710,715  |
| 連結会計年度中の変動額                   |           |           |           |         |             |
| 剰 余 金 の 配 当                   |           |           | △125,062  |         | △125,062    |
| 当 期 純 利 益                     |           |           | 691,441   |         | 691,441     |
| 自 己 株 式 の 取 得                 |           |           |           | △262    | △262        |
| 株主資本以外の項目の連結<br>会計年度中の変動額(純額) |           |           |           |         |             |
| 連結会計年度中の変動額合計                 | －         | －         | 566,379   | △262    | 566,117     |
| 平成25年3月31日期末残高                | 8,932,627 | 462,236   | 6,890,472 | △8,503  | 16,276,833  |

|                               | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額     |                 |                           | 少 数 株 主 持 分 | 純 資 産 合 計  |
|-------------------------------|---------------------------|-----------------|---------------------------|-------------|------------|
|                               | そ の 他 の 有 価 証 券 評 価 差 額 金 | 為 替 換 算 調 整 勘 定 | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計 |             |            |
| 平成24年4月1日期首残高                 | 497,574                   | △281,807        | 215,767                   | －           | 15,926,483 |
| 連結会計年度中の変動額                   |                           |                 |                           |             |            |
| 剰 余 金 の 配 当                   |                           |                 |                           |             | △125,062   |
| 当 期 純 利 益                     |                           |                 |                           |             | 691,441    |
| 自 己 株 式 の 取 得                 |                           |                 |                           |             | △262       |
| 株主資本以外の項目の連結<br>会計年度中の変動額(純額) | △105,039                  | 484,386         | 379,347                   | 200,295     | 579,642    |
| 連結会計年度中の変動額合計                 | △105,039                  | 484,386         | 379,347                   | 200,295     | 1,145,759  |
| 平成25年3月31日期末残高                | 392,535                   | 202,579         | 595,114                   | 200,295     | 17,072,243 |

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数
- ・連結子会社の名称

12社  
株式会社バンディック  
TOWATEC株式会社  
TOWAM Sdn. Bhd.  
TOWA半導体設備（蘇州）有限公司  
株式会社東進  
TOWA America Corporation  
TOWA USA Corporation  
TOWA Asia-Pacific Pte. Ltd.  
東和半導体設備（上海）有限公司  
台湾東和半導体設備股份有限公司  
TOWA Semiconductor Equipment Philippines Corporation  
TOWA Europe GmbH

上記のうち、株式会社東進については、当連結会計年度において当社が同社株式を追加取得し、子会社化したため、連結の範囲に含めております。

また、TOWA USA Corporationについては、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

##### ② 非連結子会社の状況

該当事項はありません。

##### ③ 議決権の過半数を所有しているにもかかわらず子会社としなかった会社等の状況

該当事項はありません。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

##### ① 持分法を適用した関連会社の状況

- ・持分法適用の関連会社の数 2社
- ・会社等の名称 巨東精技股份有限公司  
株式会社サーク

株式会社東進は、当連結会計年度において連結子会社となったため、持分法の適用範囲から除外しております。

##### ② 持分法を適用していない非連結子会社および関連会社の状況

該当事項はありません。

##### ③ 議決権の100分の20以上、100分の50以下を所有しているにもかかわらず関連会社としなかった会社の状況

該当事項はありません。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、TOWA半導体設備（蘇州）有限公司および東和半導体設備（上海）有限公司の決算日は12月31日であります。

連結計算書類の作成にあたって、これらの会社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

#### (4) 会計処理基準に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準および評価方法

###### イ. その他有価証券

時価のあるもの …………… 連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの …………… 移動平均法による原価法

###### ロ. デリバティブ …………… 時価法

###### ハ. たな卸資産

製品 …………… 主として個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

仕掛品 …………… 主として個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

原材料 …………… 主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品 …………… 主として最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

##### ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産 …………… 当社および国内連結子会社は定率法を、在外連結子会社は定額法を採用しております。

（リース資産を除く）  
ただし、当社および国内連結子会社については、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）について、定額法を採用しております。

ロ. 無形固定資産 …………… 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

（リース資産を除く）  
ハ. リース資産 …………… リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

##### ③ 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金 …………… 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金 …………… 当社および一部の連結子会社は、従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

ハ. 役員賞与引当金 …………… 当社は役員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

ニ. 退職給付引当金 …………… 当社および一部の連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により、それぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理しております。

- ホ. 製品保証引当金 …………… 当社は、保証期間中の製品に係る補修費用の支出に備えるため、過去の実績を基礎に売上に対応する補修費用の見積額を計上しております。また、個別に発生額を見積もることができる費用については、その見積額を計上しております。
- ④ 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準  
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産および負債ならびに収益および費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定および少数株主持分に含めて計上しております。
- ⑤ 重要なヘッジ会計の方法  
イ. ヘッジ会計の方法 …………… 繰延ヘッジ処理を採用しております。  
特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。
- ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象  
ヘッジ手段 …………… 金利スワップ  
ヘッジ対象 …………… 借入金の金利
- ハ. ヘッジ方針 …………… 金利の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。
- ニ. ヘッジの有効性評価の方法 …………… 金利スワップについては、特例処理を採用しているため、ヘッジの有効性評価は省略しております。
- ⑥ のれんの償却方法および償却期間  
のれんの償却については、3年間の定額法により償却を行っております。
- ⑦ その他連結計算書類作成のための重要な事項  
消費税等の会計処理 …………… 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。  
連結納税制度の適用 …………… 連結納税制度を適用しております。
- (5) 会計方針の変更に関する注記  
(減価償却方法の変更)  
当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。  
これにより、従来の方法に比べて、当連結会計年度の減価償却費が30,098千円減少し、営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益はそれぞれ30,098千円増加しております。
- (6) 表示方法の変更に関する注記  
(連結損益計算書)  
前連結会計年度において、「特別損失」の「その他」に含めていた「固定資産除却損」は、特別損失の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。なお、前連結会計年度の「固定資産除却損」は31,291千円であります。

## 2. 連結貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産および担保に係る債務

|                  |  |           |
|------------------|--|-----------|
| 担保に供している資産       |  |           |
| 建物および構築物（建物）     |  | 125,464千円 |
| 機械装置および運搬具（機械装置） |  | 131,700千円 |
| 土地               |  | 101,650千円 |
| 計                |  | 358,816千円 |
| 担保に係る債務          |  |           |
| 短期借入金            |  | 67,840千円  |
| 一年以内返済予定長期借入金    |  | 8,480千円   |
| 長期借入金            |  | 63,600千円  |
| 計                |  | 139,920千円 |

### (2) 有形固定資産の減価償却累計額 17,284,195千円

### (3) 当社は、資金調達の効率化および安定化を図るため取引銀行6行と当座貸越契約およびコミットメントライン契約を締結しております。当連結会計年度末における当座貸越契約およびコミットメントライン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

|                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 当座貸越極度額およびコミットメントライン契約の総額 | 6,850,000千円 |
| 借入実行残高                    | 950,000千円   |
| 差引額                       | 5,900,000千円 |

### (4) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 3. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### (1) 当連結会計年度末の発行済株式の種類および総数

|      |             |
|------|-------------|
| 普通株式 | 25,021,832株 |
|------|-------------|

### (2) 剰余金の配当に関する事項

#### ① 配当金支払額等

| （決議）               | 株式の種類 | 配当金の総額<br>（千円） | 1株当たり<br>配当額（円） | 基準日        | 効力発生日      |
|--------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成24年5月11日<br>取締役会 | 普通株式  | 125,062        | 5               | 平成24年3月31日 | 平成24年6月29日 |

#### ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌期になるもの

| （決議）               | 株式の種類 | 配当金の総額<br>（千円） | 配当の原資 | 1株当たり<br>配当額（円） | 基準日        | 効力発生日      |
|--------------------|-------|----------------|-------|-----------------|------------|------------|
| 平成25年5月13日<br>取締役会 | 普通株式  | 250,119        | 利益剰余金 | 10              | 平成25年3月31日 | 平成25年6月28日 |

### (3) 当連結会計年度末日における新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

### (4) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

#### 4. 金融商品に関する注記

##### (1) 金融商品の状況に関する事項

###### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余資は短期的な預金等に限定し運用しております。また、資金調達については主に半導体製造装置事業を行うための設備投資計画等に照らして、必要な資金を銀行借入により調達しております。なお、資金調達の効率化および安定化を図るため、取引銀行6行と当座貸越契約およびコミットメントライン契約を締結しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

###### ② 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形および売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に取引先企業および資本提携等に関する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形および買掛金は、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。

借入金および社債に係る債務は、主に設備投資および運転資金として調達したものであり、社債の償還日は決算日後、最長で4年8ヶ月であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。また、一部の借入金については、財務制限条項の抵触により、借入金の繰上返済請求を受けるリスクがあります。

デリバティブ取引は、借入金金利等の将来の金利市場における変動リスクを回避する目的で利用しております。

###### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

###### イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、受取手形および売掛金（営業債権）について、営業活動管理規程に従い、取引開始時における与信調査および与信限度額の定期的な見直し等を行っております。連結子会社についても、当社に準じて同様の管理を行っております。

###### ロ. 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての債権債務について、毎月、経理担当部門で月末残高を取り纏め、経営会議に報告しております。また、当社は、一部の長期借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的の時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限等を定めた社内ルールに従い、経理担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。連結子会社についても、当社に準じて同様の管理を行っております。

###### ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社についても、当社に準じて同様の管理を行っております。

###### ④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2.参照）。

|                          | 連結貸借対照表計上額<br>(千円)  | 時価 (千円)    | 差額 (千円) |
|--------------------------|---------------------|------------|---------|
| ① 現金および預金                | 5,608,110           | 5,608,110  | —       |
| ② 受取手形および売掛金<br>貸倒引当金(*) | 3,811,635<br>△2,192 |            |         |
|                          | 3,809,443           | 3,809,443  | —       |
| ③ 投資有価証券                 | 1,448,489           | 1,448,489  | —       |
| 資産計                      | 10,866,043          | 10,866,043 | —       |
| ① 支払手形および買掛金             | 984,805             | 984,805    | —       |
| ② 設備関係支払手形               | 352,207             | 352,207    | —       |
| ③ 短期借入金                  | 1,068,720           | 1,068,720  | —       |
| ④ 社債                     | 440,000             | 443,693    | 3,693   |
| ⑤ 長期借入金                  | 3,555,622           | 3,555,014  | △607    |
| 負債計                      | 6,401,355           | 6,404,441  | 3,085   |
| デリバティブ取引                 | —                   | △24,746    | △24,746 |

(\*) 売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

資 産

① 現金および預金

現金および預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

② 受取手形および売掛金

これらについては、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。なお、1年を超えて決済される売掛金については、信用リスクを個別に把握することが困難なため、貸倒引当金を信用リスクとみなし、それを控除したものを帳簿価額とみなしております。

③ 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、有価証券はその他有価証券として保有しており、これに関する事項については以下のとおりであります。

|                        | 種類 | 連結貸借対照表計上額<br>(千円) | 取得原価<br>(千円) | 差額<br>(千円) |
|------------------------|----|--------------------|--------------|------------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの  | 株式 | 1,406,901          | 870,150      | 536,751    |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株式 | 41,588             | 62,284       | △20,696    |
| 合計                     |    | 1,448,489          | 932,434      | 516,054    |

負債

① 支払手形および買掛金、② 設備関係支払手形、③ 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

④ 社債、⑤ 長期借入金

社債および長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。ただし、変動金利による社債および長期借入金については、金利が一定期間ごとに更改される条件となっているため、時価は帳簿価額にほぼ等しいといえることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

① ヘッジ会計が適用されていないもの

該当するものはありません。

② ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計の方法ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額等は、次のとおりです。

| ヘッジ会計の方法    | デリバティブ取引の種類等              | 主なヘッジ対象 | 契約額等<br>(千円) | 契約額のうち<br>一年超<br>(千円) | 時価(千円)  |
|-------------|---------------------------|---------|--------------|-----------------------|---------|
| 金利スワップの特例処理 | 金利スワップ取引<br>支払固定・<br>受取変動 | 長期借入金   | 1,977,500    | 1,380,000             | △24,746 |

(注) 時価の算定方法は、金融機関より提示された価格によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分     | 連結貸借対照表計上額(千円) |
|--------|----------------|
| 非上場株式等 | 197,277        |

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「③投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

|            | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>10年以内<br>(千円) | 10年超<br>(千円) |
|------------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金および預金    | 5,608,110    | —                   | —                    | —            |
| 受取手形および売掛金 | 3,811,635    | —                   | —                    | —            |
| 合計         | 9,419,745    | —                   | —                    | —            |

4. 社債および長期借入金の連結決算日後の返済予定額

|       | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>10年以内<br>(千円) | 10年超<br>(千円) |
|-------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 社債    | 100,000      | 340,000             | —                    | —            |
| 長期借入金 | 1,016,037    | 2,538,846           | 343                  | 394          |
| 合計    | 1,116,037    | 2,878,846           | 343                  | 394          |

5. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 674円56銭  
(2) 1株当たり当期純利益 27円64銭

6. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

# 貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部                |                   | 負 債 の 部                |                   |
|------------------------|-------------------|------------------------|-------------------|
| <b>流 動 資 産</b>         | <b>9,902,580</b>  | <b>流 動 負 債</b>         | <b>4,625,089</b>  |
| 現金および預金                | 3,356,932         | 支払手形                   | 503,969           |
| 受取手形                   | 9,674             | 設備関係支払手形               | 352,207           |
| 売掛金                    | 3,599,765         | 買掛金                    | 525,889           |
| 製品                     | 477,277           | 短期借入金                  | 950,000           |
| 仕掛品                    | 2,020,457         | 一年以内返済予定長期借入金          | 1,007,500         |
| 原材料および貯蔵品              | 52,398            | 一年以内償還予定社債             | 100,000           |
| 前渡金                    | 4,238             | リース債務                  | 823               |
| 前払費用                   | 51,326            | 未払金                    | 649,627           |
| 短期貸付金                  | 150,000           | 未払法人税等                 | 19,278            |
| その他の                   | 182,701           | 製品保証引当金                | 66,165            |
| 貸倒引当金                  | △2,192            | 賞与引当金                  | 225,062           |
|                        |                   | 役員賞与引当金                | 29,563            |
| <b>固 定 資 産</b>         | <b>12,933,635</b> | 前受金                    | 34,067            |
| <b>有 形 固 定 資 産</b>     | <b>8,306,272</b>  | 預り金                    | 22,769            |
| 建物                     | 2,693,454         | 未払費用                   | 105,524           |
| 構築物                    | 46,721            | その他の                   | 32,642            |
| 機械装置                   | 1,485,401         | <b>固 定 負 債</b>         | <b>3,562,498</b>  |
| 車両運搬具                  | 870               | 社債                     | 340,000           |
| 工具器具備品                 | 204,436           | 長期借入金                  | 2,475,000         |
| 土地                     | 3,850,853         | リース債務                  | 2,608             |
| リース資産                  | 3,269             | 繰延税金負債                 | 123,519           |
| 建設仮勘定                  | 21,265            | 退職給付引当金                | 621,369           |
| <b>無 形 固 定 資 産</b>     | <b>460,809</b>    | <b>負 債 合 計</b>         | <b>8,187,587</b>  |
| ソフトウェア                 | 442,833           | 純 資 産 の 部              |                   |
| その他の                   | 17,975            | <b>株 主 資 本</b>         | <b>14,256,093</b> |
| <b>投 資 そ の 他 の 資 産</b> | <b>4,166,554</b>  | 資本金                    | 8,932,627         |
| 投資有価証券                 | 1,451,891         | 資本剰余金                  | 462,236           |
| 関係会社株式                 | 961,930           | 資本準備金                  | 462,236           |
| 関係会社出資金                | 1,436,135         | 利益剰余金                  | 4,869,732         |
| 長期貸付金                  | 172               | 利益準備金                  | 37,518            |
| 長期前払費用                 | 19,832            | その他利益剰余金               | 4,832,213         |
| その他の                   | 296,591           | <b>自 己 株 式</b>         | <b>△8,503</b>     |
|                        |                   | 評価・換算差額等               | 392,535           |
| <b>資 産 合 計</b>         | <b>22,836,215</b> | その他有価証券評価差額金           | 392,535           |
|                        |                   | <b>純 資 産 合 計</b>       | <b>14,648,628</b> |
|                        |                   | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b> | <b>22,836,215</b> |

# 損 益 計 算 書

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                       | 金 額        |
|---------------------------|------------|
| 売 上 高                     | 15,680,412 |
| 売 上 原 価                   | 12,229,970 |
| 売 上 総 利 益                 | 3,450,442  |
| 販 売 費 お よ び 一 般 管 理 費     | 3,394,359  |
| 営 業 利 益                   | 56,082     |
| 営 業 外 収 益                 | 423,986    |
| 受 取 利 息                   | 3,321      |
| 受 取 配 当 金                 | 38,626     |
| 為 替 差 益                   | 233,732    |
| 貸 倒 引 当 金 戻 入 益           | 5,876      |
| 受 託 研 究 手 数 料 収 入         | 45,540     |
| 雑 収 入                     | 96,889     |
| 営 業 外 費 用                 | 135,592    |
| 支 払 利 息                   | 67,663     |
| 社 債 利 息                   | 1,942      |
| 支 払 手 数 料                 | 62,548     |
| 雑 損 失                     | 3,438      |
| 経 常 利 益                   | 344,476    |
| 特 別 利 益                   | 56,369     |
| 固 定 資 産 売 却 益             | 56,369     |
| 特 別 損 失                   | 13,364     |
| 固 定 資 産 除 却 損             | 11,214     |
| ゴ ル フ 会 員 権 評 価 損         | 2,150      |
| 税 引 前 当 期 純 利 益           | 387,481    |
| 法 人 税 ・ 住 民 税 お よ び 事 業 税 | △8,142     |
| 当 期 純 利 益                 | 395,624    |

# 株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |         |           |           |           |         |             |
|-------------------------|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|-------------|
|                         | 資 本 金     | 資本剰余金   | 利 益 剰 余 金 |           |           | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 計 合 |
|                         |           | 資本準備金   | 利益準備金     | その他利益剰余金  | 利益剰余金計    |         |             |
| 平成24年4月1日期首残高           | 8,932,627 | 462,236 | 25,012    | 4,574,158 | 4,599,170 | △8,241  | 13,985,793  |
| 事業年度中の変動額               |           |         |           |           |           |         |             |
| 利益準備金積立                 |           |         | 12,506    | △12,506   | —         |         | —           |
| 剰余金の配当                  |           |         |           | △125,062  | △125,062  |         | △125,062    |
| 当期純利益                   |           |         |           | 395,624   | 395,624   |         | 395,624     |
| 自己株式の取得                 |           |         |           |           |           | △262    | △262        |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額） |           |         |           |           |           |         |             |
| 事業年度中の変動額合計             | —         | —       | 12,506    | 258,055   | 270,561   | △262    | 270,299     |
| 平成25年3月31日期末残高          | 8,932,627 | 462,236 | 37,518    | 4,832,213 | 4,869,732 | △8,503  | 14,256,093  |

|                         | 評価・換算差額等     | 純資産合計      |
|-------------------------|--------------|------------|
|                         | その他有価証券評価差額金 |            |
| 平成24年4月1日期首残高           | 497,574      | 14,483,368 |
| 事業年度中の変動額               |              |            |
| 利益準備金積立                 |              | —          |
| 剰余金の配当                  |              | △125,062   |
| 当期純利益                   |              | 395,624    |
| 自己株式の取得                 |              | △262       |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額） | △105,039     | △105,039   |
| 事業年度中の変動額合計             | △105,039     | 165,259    |
| 平成25年3月31日期末残高          | 392,535      | 14,648,628 |

## 個別注記表

### 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準および評価方法
  - 子会社株式会社および関連会社株式 …………… 移動平均法による原価法
  - その他有価証券
    - 時価のあるもの …………… 事業年度末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）
    - 時価のないもの …………… 移動平均法による原価法
2. デリバティブ …………… 時価法
3. たな卸資産の評価基準および評価方法
  - 製品 …………… 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
  - 仕掛品 …………… 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
  - 原材料 …………… 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
  - 貯蔵品 …………… 最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
4. 固定資産の減価償却方法
  - 有形固定資産 …………… 定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
    - 建物 3～50年
    - 機械装置 5～10年
  - 無形固定資産 …………… 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
  - リース資産 …………… リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
5. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
  - 外貨建金銭債権債務は、事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
6. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金 …………… 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

- (2) 賞与引当金 …………… 従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (3) 役員賞与引当金 …………… 役員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (4) 退職給付引当金 …………… 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。
- (5) 製品保証引当金 …………… 保証期間中の製品に係る補修費用の支出に備えるため、過去の実績を基礎に売上に対応する補修費用の見積額を計上しております。また、個別に発生額を見積もることができる費用については、その見積額を計上しております。

## 7. 重要なヘッジ会計の方法

- ヘッジ会計の方法 …………… 繰延ヘッジ処理を採用しております。  
特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。
- ヘッジ手段 …………… 金利スワップ
- ヘッジ対象 …………… 借入金の金利
- ヘッジ方針 …………… 金利の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。
- ヘッジの有効性評価の方法 …… 金利スワップについては、特例処理を採用しているため、ヘッジの有効性評価は省略しております。

## 8. 消費税等の処理方法 …………… 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

## 9. 連結納税制度の適用 …………… 連結納税制度を適用しております。

## 10. 会計方針の変更に関する注記

### (減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の減価償却費が29,578千円減少し、営業利益、経常利益および税引前当期純利益はそれぞれ29,578千円増加しております。

## 11. 表示方法の変更に関する注記

### (損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「雑収入」に含めていた「受託研究手数料収入」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしました。なお、前事業年度における「受託研究手数料収入」は4,204千円であります。

(貸借対照表に関する注記)

- |                                                                                                                       |  |              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額                                                                                                     |  | 12,706,462千円 |
| 2. 関係会社に対する金銭債権および金銭債務                                                                                                |  |              |
| 短期金銭債権                                                                                                                |  | 354,712千円    |
| 長期金銭債権                                                                                                                |  | 29,424千円     |
| 短期金銭債務                                                                                                                |  | 479,068千円    |
| 3. 当社は、資金調達の効率化および安定化を図るため取引銀行6行と当座貸越契約およびコミットメントライン契約を締結しております。当事業年度末における当座貸越契約およびコミットメントライン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。 |  |              |
| 当座貸越極度額およびコミットメントライン契約の総額                                                                                             |  | 6,850,000千円  |
| 借入実行残高                                                                                                                |  | 950,000千円    |
| 差引額                                                                                                                   |  | 5,900,000千円  |
| 4. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。                                                                                          |  |              |

(損益計算書に関する注記)

- |                              |            |             |
|------------------------------|------------|-------------|
| 1. 関係会社との取引高                 | 売上高        | 217,773千円   |
|                              | 仕入高        | 6,077,362千円 |
|                              | その他        | 548,893千円   |
|                              | 営業取引以外の取引高 | 163,575千円   |
| 2. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。 |            |             |

(株主資本等変動計算書に関する注記)

- |                              |  |        |
|------------------------------|--|--------|
| 1. 当事業年度末における自己株式の種類および株式数   |  |        |
| 普通株式                         |  | 9,923株 |
| 2. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。 |  |        |

(税効果会計に関する注記)

- |                                |  |              |
|--------------------------------|--|--------------|
| 1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 |  |              |
| 繰延税金資産                         |  |              |
| 仕掛品評価損                         |  | 178,475千円    |
| 関係会社株式評価損                      |  | 1,030,743千円  |
| 退職給付引当金損金算入限度超過額               |  | 221,143千円    |
| 減損損失                           |  | 487,245千円    |
| 繰越欠損金                          |  | 810,662千円    |
| その他                            |  | 697,214千円    |
| 繰延税金資産小計                       |  | 3,425,485千円  |
| 評価性引当額                         |  | △3,425,485千円 |
| 繰延税金資産合計                       |  | —千円          |
| 繰延税金負債                         |  |              |
| その他有価証券評価差額金                   |  | 123,519千円    |
| 繰延税金負債合計                       |  | 123,519千円    |
| 繰延税金負債の純額                      |  | 123,519千円    |

繰延税金負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

|             |           |
|-------------|-----------|
| 固定負債…繰延税金負債 | 123,519千円 |
|-------------|-----------|

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

|                      |       |
|----------------------|-------|
| 法定実効税率               | 37.9% |
| (調整)                 |       |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目   | 1.9   |
| 役員賞与の損金不算入           | 3.4   |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | △2.3  |
| 住民税均等割等              | 2.7   |
| 評価性引当金の減少            | △51.4 |
| 連結法人税の子会社個別帰属額       | 4.9   |
| その他                  | 0.8   |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率    | △2.1  |

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務用機器等の一部についてはリース契約により使用しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社等

| 種類  | 会社等の名称            | 議決権等所有割合 (%) | 関係内容      |        | 取引の内容       | 取引金額 (千円) | 科目  | 期末残高 (千円) |
|-----|-------------------|--------------|-----------|--------|-------------|-----------|-----|-----------|
|     |                   |              | 役員兼任等 (名) | 事業上の関係 |             |           |     |           |
| 子会社 | TOWAM Sdn. Bhd.   | 直接所有100.0    | 2         | 製品の外注  | 製品の外注注2.(1) | 2,291,215 | 買掛金 | 29,170    |
| 子会社 | TOWA半導体設備(蘇州)有限公司 | 直接所有100.0    | 3         | 製品の外注  | 製品の外注注2.(1) | 1,638,210 | 買掛金 | 113,329   |

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件および取引条件の決定方針等

(1) 一般取引条件を参考にして決定しております。

(1株当たり情報に関する注記)

|               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 585円67銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 15円82銭  |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成25年5月9日

TOWA株式会社  
取締役会 御中

京都監査法人

指定社員 公認会計士 深井和巳 ㊞  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 鍵圭一郎 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、TOWA株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、TOWA株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成25年5月9日

TOWA株式会社  
取締役会 御中

京都監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 深 井 和 巳 ㊞

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 鍵 圭一郎 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、TOWA株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第35期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第35期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、当期の監査の方針、監査計画を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査規程に準拠し、当期の監査の方針、監査計画に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告書に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、監査役会が定めた内部統制システムに係る監査の実施規程に準拠し、取締役及び内部監査室等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社に赴きその業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人京都監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人京都監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成25年 5 月 9 日

TOWA株式会社 監査役会

常勤監査役 小林久芳 ⑩

監査役(社外監査役) 杉山公律 ⑩

監査役(社外監査役) 和氣大輔 ⑩

以上

## 株主総会参考書類

### 議案および参考事項

#### 議 案 取締役 8 名選任の件

取締役全員（7名）は、本総会の終結の時をもって任期満了となります。つきましては、経営体制強化のため1名増員し、取締役8名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                          | 略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                | 所有する当社の株式数 |
|-------|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | ばんどう かずひこ<br>坂 東 和 彦<br>(昭和10年11月3日生) | 昭和54年4月 当社設立、代表取締役社長<br>平成12年6月 当社代表取締役会長<br>平成15年8月 当社取締役会長<br>平成17年9月 当社代表取締役会長兼社長<br>平成18年6月 当社代表取締役会長（現任）                                                                                                                         | 1,555,560株 |
| 2     | おかだ ひろかず<br>岡 田 博 和<br>(昭和26年8月11日生)  | 昭和54年4月 当社入社<br>昭和63年3月 当社取締役<br>平成12年6月 当社常務取締役<br>平成15年8月 当社取締役<br>平成17年11月 当社取締役PM市場開発室長<br>平成18年6月 当社取締役常務執行役員<br>PM市場開発室長<br>平成20年6月 当社取締役常務執行役員<br>開発本部長<br>平成22年4月 当社専務取締役<br>開発本部・営業本部・坂東記念<br>研究所担当<br>平成24年4月 当社代表取締役社長（現任） | 120,720株   |
| 3     | あまかわ つよし<br>天 川 剛<br>(昭和19年9月30日生)    | 昭和44年4月 京利工業株式会社入社<br>昭和55年1月 当社入社<br>平成9年6月 当社取締役技術本部副本部長<br>平成12年10月 当社取締役システム事業部技師長<br>平成17年11月 当社取締役開発本部長<br>平成18年6月 当社取締役常務執行役員開発本部長<br>平成20年7月 当社顧問<br>平成22年5月 当社フェロー<br>平成24年4月 当社フェロー開発本部担当<br>平成24年6月 当社専務取締役<br>開発本部担当（現任）  | 45,564株    |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                       | 略歴、地位および担当ならびに<br>重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                        | 所有する当社の株式数 |
|-------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 4     | こにし ひさじ<br>小西久二<br>(昭和27年2月17日生)   | 昭和54年4月 当社入社<br>平成23年6月 当社常務取締役<br>モールド事業部・システム事業部<br>担当<br>平成24年2月 当社常務取締役システム事業部長<br>モールド事業部・システム事業部<br>担当<br>平成24年4月 当社常務取締役<br>モールド事業部・システム事業部<br>担当(現任)                                                                      | 20,800株    |
| 5     | ふくとみ まこと<br>福富誠<br>(昭和30年9月7日生)    | 昭和54年4月 日本ポリエステル株式会社入社<br>昭和60年9月 当社入社<br>平成19年6月 当社取締役執行役員生産本部長<br>平成22年4月 当社常務取締役<br>モールド事業部・システム事業部<br>担当<br>平成22年7月 当社常務取締役生産本部担当<br>平成23年6月 当社常務取締役(現任)<br><br>(重要な兼職の状況)<br>TOWAM Sdn. Bhd. Chairman<br>兼 Managing Director | 22,300株    |
| 6     | ※うらがみ ひろし<br>浦上浩<br>(昭和33年1月31日生)  | 昭和58年3月 当社入社<br>平成17年11月 当社開発本部PM開発部長<br>平成20年6月 当社開発本部装置開発部長<br>平成22年4月 当社執行役員開発本部長(現任)                                                                                                                                          | 7,100株     |
| 7     | ※たむら よしずみ<br>田村吉住<br>(昭和29年12月5日生) | 昭和52年4月 株式会社京都銀行入行<br>平成22年12月 株式会社京都銀行営業統轄部阪神<br>営業本部長<br>平成24年7月 当社入社<br>管理本部総務部長(現任)                                                                                                                                           | 一株         |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                    | 略歴、地位および担当ならびに<br>重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                 | 所有する当社の株式数 |
|-------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 8     | くわき はじめ<br>桑木 肇<br>(昭和19年8月5日生) | 昭和45年1月 ブライス・ウォーターハウス<br>会計事務所入所<br>昭和52年11月 監査法人中央会計事務所入所<br>平成5年9月 中央監査法人代表社員<br>平成6年6月 中央監査法人京都事務所所長<br>平成19年8月 京都監査法人入所<br>平成21年9月 桑木公認会計士事務所開設、所長<br>に就任(現任)<br>平成23年6月 当社取締役(現任)<br><br>(重要な兼職の状況)<br>桑木公認会計士事務所所長<br>ダイバア株式会社社外監査役<br>富士機工株式会社社外監査役 | 1,200株     |

- (注) 1. ※印は新任候補者であります。
2. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
3. 桑木 肇氏は、社外取締役候補者であります。
4. 桑木 肇氏は、過去に社外役員となること以外の方法で会社の経営に関与された経験はありませんが、公認会計士としての豊富な経験と専門性を有しており、客観的な立場から当社の経営に参画できることから、社外取締役としてその職務を適切に遂行できるものと判断しております。
5. 桑木 肇氏は、現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって2年となります。
6. 当社は、社外取締役との間に、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。桑木 肇氏の再任が承認された場合には、同氏との間で当該契約を継続する予定であります。
7. 当社は、桑木 肇氏を東京証券取引所および大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。同氏の再任が承認された場合には、当社は引き続き同氏を独立役員とする予定であります。
8. 各候補者の所有する当社の株式数につきましては、平成25年3月31日時点の状況を記載しております。

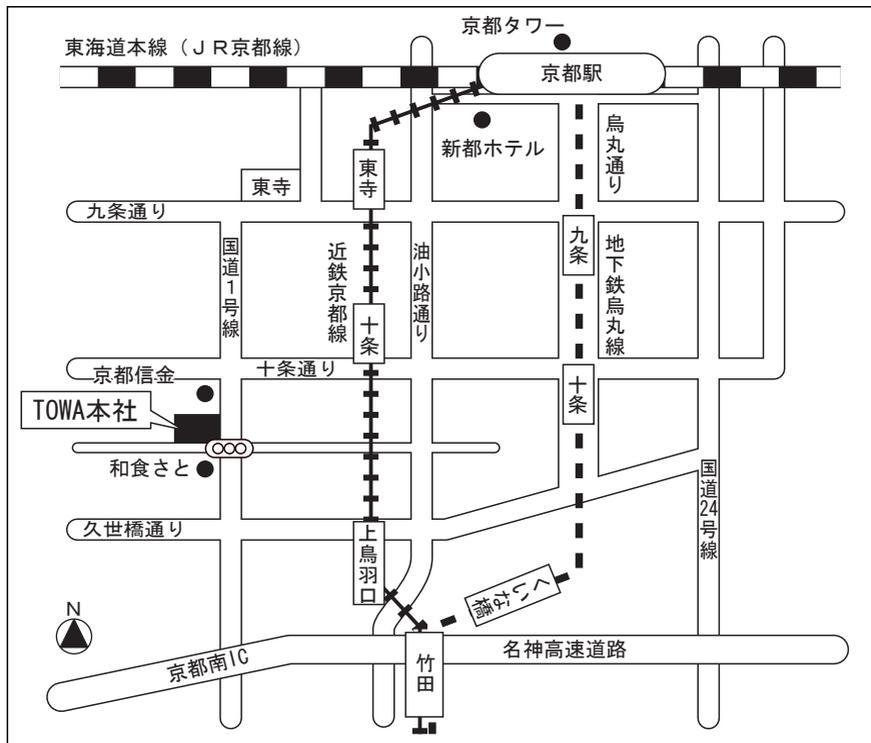
以 上

# 株主総会会場ご案内図

京都市南区上鳥羽上調子町5番地

当社本社7階会議室

T E L (075) 692-0250 (代表)



(交通)

- ・近鉄京都線「十条」駅より 徒歩 約15分
- ・地下鉄烏丸線「十条」駅より 徒歩 約20分
- ・JR「京都」駅 八条口より タクシー 約10分

(お願い)

駐車場に限りがありますので、お車でのご来場はご遠慮  
くださいますようお願い申し上げます。